

# 学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾  
麻生美容専門学校

## 目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況 .....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針 .....	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況 .....	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法 .....	- 3 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方 .....	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について .....	- 4 -
2. 基準項目について .....	- 5 -

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生美容専門学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

#### 2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

### 2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	林 圭一	株式会社ダリア 福岡営業所 課長
高等学校	延 憲治郎	純真高等学校校長
地域住民	浦川 美代子	博多駅南1丁目自治会長
卒業生	奥野 祐希	プランツヘアー博多 代表取締役
保護者	末廣 正史	美容科2年生 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時： 2021年 6月9日(水) 15:00 ~ 17:00

場 所： 麻生塾 福岡キャンパス8号館6階 861教室

### 4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者評価委員の皆さまに、2020年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、自己評価結果に対する意見をいただく。

## 5. 学校関係者評価（自己評価結果の評価）の仕方

2020年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

## II. 学校関係者評価委員会報告

### 1. 重点項目について

#### 学校の取り組み状況

##### 重点項目と取り組み状況

##### (1) 学校教育理念「技・創・信」にもとづいた教育の提供と周知

2020年は教育組織体制およびPDCAサイクルの改革を行った体制の2年目にあたる。教育理念「技・創・信」にもとづいた教育の提供を2020年の重点項目の1つとし、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に沿った教育活動を実施してきた。質(技術力)の高さを追求する教育の実践として、全世界に60カ国600店舗を超える『トニー&ガイ』や世界的コスメブランドの『シュウ ウェムラ』との教育提携を行い、各ブランドの手技に沿った世界基準の教育を実践してきた。

##### (2) 教育方法及び学習指導の改善活動の強化

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によりオンライン授業だけでなく動画コンテンツの作成など教育方法および学習指導の多様化に学校全体で努めてきた。運用初期には多少の不具合等も発生したが、オンラインでの授業環境の整備を進め、現在ではスムーズな運用を行えている。授業総コマ数の4分の1程度のオンラインでの授業実施を行い、次年度も引き続きオンライン環境の整備・改善活動の強化に努めていく。

##### (3) 学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援強化

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援強化に関してもコロナ禍の状況の中、必要書類のオンライン申請システムの拡充、在学生から申請を受け付けた場合でのノートPC、Wi-Fiルーターの貸し出し、学生全員に対し学食での食事券の給付(5回分)など多岐にわたっての支援を実施した。また、進路支援に関しても就職説明会をオンラインで実施するなど感染防止策を含めた支援強化に努めた。

#### 評価委員からの意見

特記事項なし

#### 今後の取り組み

「社会人基礎力」の学びの視点を活用し、美容業界で活躍し続けるために必要な能力の醸成を図っていき、新型コロナウイルスの問題が解決され学校が再開されても学校での対面授業とオンライン授業と組み合わせることで、より効果的な教育を実施、教育方法および学習指導の改善活動の強化は継続していく。

教育の格差が生じないように教育成果を測定し、あらゆる環境でも教育の継続が出来る環境と整え、学生への不安を取り除き、寄り添うとことで学びを支えていく事を推進していく。

## 2. 基準項目について

### 基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

#### 総括 / 課題

麻生専門学校グループは「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」を教育理念とし、本校は『技・創・心』と定めている。本校の育成人材像は「志」の高い「美容業界で活躍し続ける人材」である。この人材像に沿ってアドミッション・ポリシー【①感謝と思いやりの心を持つ人②向上心のある人③多様性のある切磋琢磨できる人】を定めている。法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、アドミッション・ポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーはホームページをはじめ、学生便覧、学校紹介パンフレット、オープンキャンパス、入学予定者対象の説明会、高校教員対象の説明会、学内企業説明会などを通して学内外に明確に表明し、広く周知を図っている。また、全教員が出席して開催される講師会や、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会でも説明をおこない定期的に点検を実施している。

併せてステークホルダーとのコミュニケーションは、学校理解の為、重要であり高校生、保護者、高等学校教員等への説明会を実施しているが、今後はコミュニケーションによって得た情報を学校運営に活かす仕組みを確立し、情報の有効活用に努める努力を行う。

#### 評価委員からの意見

特記事項なし

#### 今後の取り組み

全職員に対して教育理念の継続的な浸透を図り、ステークホルダーとのコミュニケーションの説明を継続して実施し、周知徹底を進めて行く。また、ホームページや SNS 等の多様な手段により、法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を高校生やその保護者にわかりやすい周知の実施をおこなっていく。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適正

**総括 / 課題**

事業計画については校長代行を中心に策定し、計画に沿って適切に運営されている。運営方針はルールブックに記載し、規定通り運営している。

日々の学校運営での組織の意思決定は、校長代行・主任・副主任を中心に実施しており、教職員会議で進捗状況の確認をおこない共有され有効に機能しており、問題等が発生した場合の意思決定も適切に実施されている。

学生数の増減に伴う採用計画や人員配置など、定期的に見直しを行い適切に運営されている。また人事評価については業務遂行シート、目標達成シートを使い面談を実施し、合意に基づいた評価を行っている。

学校運営としては規定通り運営されており、人的・物的諸条件を整備し、その組織運営にかかる諸活動を管理・調整している。

コロナ禍の影響で事務職員の研修参加が出来なかったことが課題として上げられる。事務職員の意欲・資質向上させる上で重要項目である為、将来のキャリアを見据えた計画の整備を促進させる。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点で各種対応が必要となった。法人本部で作成した方針に従い、運営面は学内で共有し推進した。

その他の規則についても状況に合わせ適切に改訂をおこない共有をおこなった。

**評価委員からの意見**

特記事項なし

**今後の取り組み**

事務職員の資質・能力の向上の為の研修や事務体制の整備を講じることにより、学校の事務機能を強化する。また、社会環境の変化と共に人事に関するテレワークの導入など制度改革を進めており、2022 年度からの新制度施行に向けて着手し始めている。

## 総括 / 課題

美容業界の人材育成ニーズに基づき、教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示しており、社会に公表している。ポリシーに基づき、カリキュラムマップ作成し、授業科目を適切に配置することで、実践的かつ専門的な教育体系的に編成している。

本校は「職業実践専門課程」として文部科学大臣に認定されており、カリキュラムは教育課程編成委員会にて業界の方と共に検討し、教務会議にて決定の上、編成し適切な教育が行われているか検討会議を行い、定期的に検証・改善を行っている。

また、カリキュラム会議を実施し、それを基に教育課程編成委員会で検討の上、カリキュラムを編成している。カリキュラム・ポリシーに基づき定期的な見直しも行いシラバスを作成し教育の充実を図っている。

実践的な教育については『TONI&GUY』のカットシステムを導入するなど時代のトレンドに沿った技術を学生に提供できており、美容業界トップサロンとの交流を活発にすることで業界理解を深めるとともに実践教育を実施している。

成績評価は成績評価規定に基づき、単位認定がなされ、進級・卒業判定も適切に実施されている。特に人間力の育成には重点的な指導を組織的に行っている。評価規定は学生全員に学生便覧、シラバス等にて周知している。成績評価基準が公正で厳格かつ客観的に実施されているかを成績評価表で継続的に確認していき、教職員間でも共通認識を得るための継続的な確認を実施している。

また、前期・後期に各1回授業アンケートを実施しデータ処理後、各教員に配布し本人の改善策を記入、その後面談を行い改善に取り組んでいる。

教務組織体制の整備については、不測の事態により教育活動が止まってしまうリスクが考えられるため、教員の各種研修に計画的に参加、資格取得の促進や業務分担について取り組んでいる。

入学前教育等の『リメディアル教育』を実施しているが、効果的な測定と分析が十分とは言えない部分があり改善の余地があると考えている。

## 評価委員からの意見

・当校が考えている美容のニーズ、又は実践的な教育支援をどう捉えられているか

⇒求められる人材とは、辞めない人材がまず第1に上がってくると考えている。

美容業界は離職率も高いため、その為に自分が必要とされていると感じる場所があると辞めない方向になるのではないかと感じている。

技術力・モチベーション力も大切な部分となってくる。学生本人がどうすれば必要とされる人材になれるのかと考えられる授業を組み込んでいっている状態。

・授業アンケートはどうやって集計し、どう処理されているのか

⇒前期・後期2回に分けて授業アンケートを全科目実施している。アンケートは、スマートフォンなどを使用して、自動集計され、法人本部にて、各個人データと美容専門学校の平均、麻生塾全体の平均、各個人が分かるように処理される。また、レーダーチャートで視覚的に自分の状況が分かるように工夫されている。このデータを元にヒアリングを実施し、平均下回っている場合や改善点などについてですが、原因を確認し、教育力を高めるための面談を行っている。

## 今後の取り組み

・本校は、教育課程の編成・実施方針・カリキュラムマップに基づき、授業科目を適切に開設し、実践的かつ専門的な教育課程を体系的に編成しており、美容業界ニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容の提供を行っているが、昨今のコロナ禍の中でも業界として必要とされる人材育成のため、時代に合わせたカリキュラムの検討やオンライン授業の取入れを実施し、その教育的効果の検証をおこなう。

昨年度はコロナウイルスの感染拡大で実務実習が実施出来ていない状況だった。次年度は感染状況を踏まえ、実務実習実施を検討していく。

・授業アンケートの結果を基に、評価方法・評価基準を学生自身が意識しながら授業・課題に取り組めるよう成績基準について理解を深めていくための指導に取り組み、組織体制に基づき見直しの実施を行う。その中で教職員の能力の開発と質の向上に取り組み、「見える化」「標準化」を行う。業務分担や引継ぎを推進し、複数の担当者が同じ業務ができる体制にすることを長期的目標とする。具体的には教員の各種研修に計画的な参加、教科指導、要件資格取得の為、計画的な教育訓練を企業等と連携し取り組み実施することで教育力の向上を図っていく。

・入学前教育等の『リメディアル教育』を実施しているが、効果的な測定と分析が出来る様改善していく。



## 総括 / 課題

2020 年度開始前時にキックオフ会議で教育活動の成果としての成績、検定取得、退学者、離職率等の目標値について目標設定を行い、教職員が情報共有をおこなっている。進捗状況については毎月、クラス運営報告書として各クラスの状況を報告し、モニタリング面談や教職員会議にてその状況を定期的に振り返っている。コンテストおよびコンペディション入選の向上と取組みについては、コロナ禍の中、すべてのコンペティションが中止になっており、学生の意欲が減退するなど、日本の美容業界全体への技術力低下の影響が懸念される為、学内コンテストを計画・実施することでモチベーションアップを図った。また、国家試験については約 9 割の学生が合格をしている。コロナウイルスの影響で遠隔授業でのモチベーションの維持や、学習習得の確認方法が今後の課題である。

卒業生の社会的評価について就職担当者による企業ヒアリングや教育課程編成委員会等にて確認を行っているが、定性的な内容にとどまっている。

退学防止の取り組みについては、2019 年度は 8 名と成果がでたものの、2020 年度は 13 名と新型コロナの影響もあり退学者は微増となった。

## 評価委員からの意見

- ・ コロナウイルスの影響でコンテスト等がなくなったことにより、学生の意欲の退減についてコンテストに対しての意欲はどうか  
⇒ 学生の意欲の高さは退減していない。コロナウイルスもあり意欲が下がらないよう試行錯誤し、その中でも学内でのコンテスト等を通して意欲の高さを実感した。イベント等の施術ではプロモデルのヘアメイクが出来る環境を作り、技術のオーディションを実施するようにした。  
選抜で選ばれなかった学生は落ち込むことなく次回の為に取り組む意欲に繋がっている。
- ・ コロナウイルスをきっかけに SNS(Youtube など)で発信されている部分が在校生のやる気に繋がっていて又、来校される高校生が専門学校に麻生を選ぶ 1 つの理由になっているのか  
⇒ モチベーションアップになっていると感じている。人前に出て話したり実技をする経験を就活に活かしたりしてやる事が大切だと思っている。
- ・ 学生へのモチベーションアップはとても好感が持てた。  
又、Youtube を活用されている為、遠くからでも学校の様子が拝見できることはとても良いと感じた。
- ・ 退学者/離職者の目標値数を表記することで目標値に対して S の評価が分かりやすく感じた。  
来年度の課題として次年度の方針・目標値も含め示して欲しい。  
⇒ 2020 年度は 6 名の目標数値で 12 月までは目標は達成していたが進級前に退学者が増えていた。  
理由としてはコロナウイルスによるリモート授業等で意欲の低下が伺える。例年、プログレッシブセミナーを開催し、意欲低下にならないよう実施していたが昨年はコロナウイルスにより実施が出来なかった。再度今年度から再スタートして実施している。今のところは経済的理由以外の退学者はいない状況である。
- ・ 企業のヒアリングはどれぐらいの社数をされているのか  
又、ランダムな件数であるのか、決まった企業様に行っているのかどうか  
⇒ 今年度は採用試験後に学生の状況など確認を実施した。受験先に卒業生がいれば状況のヒアリングしている。意見を頂き、その部分を学生指導に活かしたりしている。

## 今後の取り組み

コロナ禍の中で感染予防対策の為、国家試験 2 週間前からのオンライン授業へ切り替えて実施した。今年度も様々な状況に備えて、受験対策指導を計画的に実施していく。また、次年度も同じような状況が考えられるために早期育成を計画・実施していく。

## 総括 / 課題

学生が安定した安全な学生生活を送ることができるように、臨床心理士による学生相談室や就職担当者の配置等、学校全体でサポートする体制を整備している。教務・事務局問わず、組織的な体制で行っている。具体的には、学生の相談・支援を行う『学生相談室』の設置や、進路・就職のサポートを行う『キャリアサポートセンター』の設置、奨学金・各種証明書のサポート・発行を担当する『学生課』を常設しサポートを常時行っている。

2020 年度は、コロナの影響で、可能な限りオンラインでの支援環境の整備に努めており「Microsoft Teams」を活用してオンラインでも問題なく運営できるように取り組んだ。また、麻生塾内の各学校に『衛生委員会』を設置しており、コロナ禍の活動としては、学生への感染対策としてのマスクの着用・手洗い・うがいの励行・咳エチケットの徹底・消毒用エタノールの設置と備蓄・学生・保護者への情報発信の体制など、保健環境の整備に努めている。生活環境への支援において、直営寮・提携寮を完備している。寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを取り入れている。

本校では、新入生保護者・就職保護者会・3 者面談を毎年実施しており保護者との連携を取りながら学校の教育活動について情報提供を適切に実施している。学生との面談・保護者との連絡も記録として残しており、適切に管理がなされている。

今後の課題としては、本校でも、新型コロナウイルスの感染者が発生しており、課外活動・学校行事についても新型コロナ予防対策を更に徹底し、学生の安全を確保しながら授業実施をしていく必要がある。

卒業生の再就職については校友会を窓口として、就職グループが本人の希望を確認して、進めている。

## 評価委員からの意見

特記事項なし

## 今後の取り組み

学校において集団感染が発生しないように感染防止に関する研修や、マニュアルに従い学校においても新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組む。

経済状況の変化に伴う、学びの継続が出来なくなる様、支援に取り組んでいく。

### 総括 / 課題

施設、設備については担当部署と連携し、年度毎に設備の補充・更新を計画的に実施しており、かつ良好に管理ができています。教育環境の設備は規定やルールを定め適正に運営している。図書館については専門分野についての資料を設置し、教職員、学生が利用できる状態である。資料として美容の専門誌を置くなど充実も図っている。課題としては、学内の専門誌の管理方法があげられる。利用時、使用後の確認を適切にすることが必要である。

インターンシップ・海外研修はコロナウイルスの影響で中止となったが、今年度は状況を確認しながら推進していく。

学内の安全管理については、平時の学内点検、防災設備の定期点検および『防災管理者』を定めて、組織的に対応できるようマニュアルを作成している。

### 評価委員からの意見

・本年度は麻生美容専門学校限定で求人を出させていただいている。

卒業生という立場もあるので、後輩を大切に育てていきたいと考えており麻生の学生を率先して採用していきたいと考えている。

### 今後の取り組み

福岡キャンパスに移転したことで教育環境の整備が充実した。今後も引き続き向上させていく。

コロナウイルス感染予防を徹底し、企業との連携を深め、学生が安全に実務実習の実施できるよう検討していく。

### 総括 / 課題

本校の募集要項やホームページにアドミッション・ポリシーを明示し広く公開しており、学生募集は専属の担当者を配置し、教職員全員で「学生募集及び入学者選抜に関するガイドライン」やマニュアルを共有し、学生の受け入れ方針に従い、公正かつ適切に運用が出来ている。入学希望者や保護者に対して、オープンキャンパスや説明会にて教育成果等正確で詳細な数値での説明を実施している。学費や就職面に対しては、個別の説明会を実施し丁寧に説明が出来きる様にしている。学科独自のリーフレット等も作成し、カリキュラムの特徴等を具体的に、理解が促進出来るようにしている。入学等の問い合わせに関しては随時対応できる体制を整えて実施している。

学生納付金等については、財務状況などを考慮しながら設定を行っている。入学者の選考については選考基準を定め、適切に運用を行っている。実施体制についてもコロナ感染防止の観点から、新しくオンライン入試を取り入れ実施した。 今後は定員数や選考基準など、検証していく。

### 評価委員からの意見

特記事項なし

### 今後の取り組み

世の中の動向（マクロ）を調査・分析し、学生募集および入学者選抜の適正性を検証し、公正かつ適切な運営を実施していく。

### 総括 / 課題

学校の財務基盤は安定しており、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。学校の財務面の管理運営については、予算計画を策定し、月次における予算決算管理および昨年度対比による分析を行っている。分析の中で重要な差異が生じた場合等には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領し、理事会にて報告をおこなっている。情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

### 評価委員からの意見

特記事項なし

### 今後の取り組み

今後も予算決算管理及び過年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

### 総括 / 課題

専修学校設置基準を遵守し、適切に学校運営を実施している。教育環境については教育推進グループ・法務グループと協議し、教室設備の見直し、教員配置の確認を行っている。学校教育法及び専修設置基準等、関係令や内規程を遵守して運営を行っている。教務室内に『理容師・美容師関係法令通知集』を閲覧できる環境を整備し、関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を適切に運用、適正な学校運営を行っている。各法令に従い、届出・申請・報告などの手続きを確実に実施できるよう、本校で実施する手続き等については麻生専門学校グループ法人本部にて再チェックする体制が整備されている。今後、設置基準の変更等が発生した場合には、事業戦略グループと連携を行い、整備・調整を行っていく。個人情報保護やハラスメントに関しては、規程を整備し、学生・教職員共に相談できる窓口を設置して対応している。

### 評価委員からの意見

特記事項なし

### 今後の取り組み

教職員への啓発及び教育に関しては、継続的に実施する必要があることから、学内研修を充実させ、積極的に参加を推進し、知識の習得に努める。

### 総括 / 課題

学校教育、学校運営について毎年、自己点検・評価を実施している。自己点検については担当教職員を中心に評価を行い、教職員全体で共有を行い、内部での改善活動や是正活動に活かしている。自己点検の評価については、企業関係者や地域住民、保護者、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者評価委員会で報告している。また、改善項目については、委員の意見を取り入れ改善計画を立案し実施している。学校関係者評価委員会の結果は教職員会議内でも共有され、さらに報告書は麻生塾ホームページにて公開している。

自己点検で明確になった課題については、教職員全体で定期的に検証・確認している。新たに改善に向けた方策が必要な場合は早急に対策を講じる必要があると考える。

### 評価委員からの意見

特記事項なし

### 今後の取り組み

自己点検で明確になった課題については、教職員会議、学年会議にて定期的に検証・確認をおこない、新たに改善に向けた方策が必要な場合は早急に対策を講じ、問題解決に向けて真摯に取り組んでいく。

### 総括 / 課題

社会貢献・地域貢献に関しては、学生のボランティア活動を奨励し、高齢者福祉施設への訪問活動を中心に活動を毎年実施してきた。本年度はコロナ禍の中で実施が出来ておらず、2021 年度は実施内容を含めて検討が必要と考える。社会的な活動や地域貢献活動・ボランティアを通じて、学校としても地域の発展や活性化に協力ができ、そのプロセスにより 学生が通常の授業の中では得られない「学び」を得ることが多い貴重な機会であると認識していたが、コロナ禍の中でも実施可能な形の模索と検討が必要である。

### 評価委員からの意見

特記事項なし

### 今後の取り組み

教職員会議、学年会議にて社会的な活動や地域貢献活動のニーズやリモート対応を含めた実施内容の検討を行っていく。

### 総括 / 課題

留学生の受け入れについては、麻生塾全体で受入を積極的に行なっている。在校生にとってもグローバル化に対して考え、体験できる貴重な機会である。

語学などコミュニケーション能力の向上も今後の課題と考える。2020 年度はコロナ禍の影響で、海外留学プログラムを実施することができなかったが、2021 年度は状況を確認しながら、実施またはオンライン等の手法も取り入れて実施したい。各国の留学生受入れ状況を常に把握し、将来の留学の可能性に向けて常に最新情報を「留学通信」という紙媒体を通じて学生・保護者へ共有するよう務めた。昨年度も留学生 1 名が在籍しており、無事に卒業・美容師免許も取得している。

### 評価委員からの意見

特記事項なし

### 今後の取り組み

社会の状況を見ながら、長期・短期の海外留学制度(オンライン含む)の学内での説明会の実施の検討を行い、実施時には事前の語学勉強会などのサポートを関連部門と連携し、順次調整・実施していく。